

開講科目一覽

《卒業要件》

所定の必修単位12単位及び、選択科目50単位以上を修得し、合計62単位以上を修得すること。
このうち、15単位以上は、スクーリング科目履修であること。

※T=テキスト履修 S=スクーリング履修

※履修登録の上限（一年次）：42単位/年間

※教養科目から10単位以上（必修含む）/専門科目から46単位以上（必修含む）を取得すること。

教養科目

科目名	授業形態	卒業要件 単位数	
		必修	選択
文学	T		2
心理学	T		2
経済学〈未開講〉	T		2
日本国憲法	T		2
生物学〈未開講〉	T		2
基礎学力演習Ⅰ	T		2
おだたん人間成長講座Ⅰ	T	2	
職業と社会Ⅰ	T		1
職業と社会Ⅱ	T		1
《外国語》			
英語	T	2	
英会話〈未開講〉	S		1
《体育》			
健康・スポーツ理論	T	1	
健康・スポーツ実技	S	1	
取得単位小計		6	4※1

※1:教養科目、選択から4単位以上取得すること

専門科目

科目名	授業形態	卒業要件 単位数	
		必修	選択
子どもの食と栄養Ⅰ	T		1
子どもの食と栄養Ⅱ	S		1
子どもの保健	T		2
子ども家庭支援の心理学	T		2
子どもの健康と安全	S		1
保育原理	T		2
社会的養護Ⅰ	T		2
社会的養護Ⅱ	S		1
社会福祉	T		2
子ども家庭福祉	T		2
子ども家庭支援論	T		2
情報処理論	S		2
卒業研究(ゼミナール)	S		1
音楽表現Ⅰ	S		1
音楽表現Ⅱ	S		1
造形表現Ⅰ	S		1
造形表現Ⅱ	S		1
身体表現Ⅰ	S		1
身体表現Ⅱ	S		1
言語表現	S		1
音楽表現指導法	S		1
造形表現指導法	S		1
身体表現指導法	S		1

科目名	授業形態	卒業要件 単位数	
		必修	選択
健康	T		1
人間関係	T		1
環境	T		1
言葉	T		1
表現(造形)	T		1
表現(音楽)	T		1
保育者論	T	2	
教育原理	T	1	
教育制度論	T	1	
教育社会学	T		1
保育の心理学Ⅰ	T	2	
保育カリキュラム論	T		2
保育内容総論Ⅰ	S		1
環境指導法	S		1
健康指導法	T		2
表現指導法	T		2
言葉指導法	S		1
人間関係指導法	T		2
教育の方法と技術	T		2
幼児理解の理論と方法	S		1
教育相談	T		1
保育・教職実践演習(幼稚園)	S		2
教育実習指導	S		1
教育実習	S		4
乳児保育Ⅰ	T		2
乳児保育Ⅱ	S		1
特別支援教育・保育概論	T		1
障害児保育	S		1
子育て支援	S		1
取得単位小計		6	46※2
取得単位合計		12	50

※2:専門科目、選択から46単位以上取得すること

専攻科 科目 ★=専攻科開設科目

児童文学★〈未開講〉	T		2
児童文化★〈未開講〉	T		2
ボランティア活動★	T		2
保育実習指導Ⅰ★	S		2
保育実習Ⅰ(保育所)★	S		2
保育実習Ⅰ(施設)★	S		2
保育実習Ⅱ★	S		2
保育実習指導Ⅱ★	S		1
保育実習Ⅲ★	S		2
保育実習指導Ⅲ★	S		1

科目の概要

◆教養科目◆

科目名	授業科目の概要
文学	近現代の日本文学作品を読み深めながら、文学史や作家についての知識を得るとともに、社会人として必要な読解力と文学的感性を養う。毎回、作品を通読した後、作品の内容を段落ごと、あるいは章ごとに分け、スモールステップで分析・検討し、最後に全体を貫くテーマについて考察する。
心理学	人間をより深く理解するために必要な専門的方法や理論を学び、自分自身を含めた人間に対して興味・関心を広げることを目的とし、学んだ知識や方法を実際に日常生活に応用し、その結果充実した人生を送れるようになることを目標とする。
経済学	この教科目では、生活を「経済学」の視点から捉え、生活に必要な経済の基礎について、可能な限り簡単に解説していき、経済ニュースを身近に感じられるように、経済を見る眼を養い、経済ニュースについて、問題発見能力、問題処理能力、事務処理能力を習得する。
日本国憲法	日本国憲法の抛って立つ理念・基本原理、基本的人権の内容について、学ぶ。特に、基本原理相互の関係性や、一つ一つの基本的人権が個人の尊厳性に基づくものであること、各人権が誕生した歴史的背景について、詳しく学ぶとともに、統治機構については、権力分立を中心に学んでいく。
生物学	人間は生物の一員としてこの地球で生活をしている。本授業では、生物の生きるしくみから、地球全体の生物や環境のつながりまでを幅広く学び、生命や環境について考える。特に、身近にみられる生物を観察することに重点を置き、その観察を通して、生き物を見る目を養う。
基礎学力演習Ⅰ	保育者として必要な保育用語について知るとともに、敬語やマナー、礼状の書き方等の教養事項について理解する。また、言葉のレッスンを名文の音読、視写、テーマ作文等の練習を通して、日本語の楽しさや美しさを理解し、正しい日本語を身につけ、大切にしようとする態度を身につける。
おだたん人間成長講座Ⅰ	本学の歴史や校歌を学び、読書、美術館鑑賞、日本の文化や古典芸能鑑賞を行い、地域活動へのかかわりを経験する。これらを通して本学の建学の精神や教育理念を理解し、本学学生としての自覚を高め、自己を見つめ、人としての生き方・学び方を考える。
職業と社会Ⅰ	保育者として社会に出たとき、各々の職場には様々な常識やマナーが存在する。それを一つの職業観として取り上げていく。子どもとかかわる仕事を選んだ学生に、どんな未来が待っているか、ワクワクしながら学んでいきたい。
職業と社会Ⅱ	「職業と社会Ⅰ」で学んだ職業観・就労意欲を基に、社会人として働く未来の自分の姿を描き、職業選択に生かしていく。現場の方々の姿に触れることで、専門性を持って働くことの意義や悩み・やりがい等について理解する。
英語	保育を学ぶ学生用に編集された英語教材『保育の英会話』のテキストとCDを使って、保育現場での日常や行事等で必要とされる英語を学習する。将来保育現場で英語での対応が必要になった時に必要な単語力・基礎的な会話力を養成し、英語の常識や他国の保育事情にも目を向ける。
英会話	初級者を対象に聞く力、話す力をつけるために、ネイティブスピーカーにより、学生のspeakingとlisteningを中心に、実践力を養成する。それとともに他の国のカルチャーを学んで、多文化共生社会に適用できる人材を育成する。教材には、携帯電話、インターネット、ゲーム、ビデオ等多様な機器を活用する。
健康・スポーツ理論	健康は自分の責任のもとに守られるべきものであり、自らの人生目標達成の大きな要素となるものである。本授業では、自己の健康を維持向上させる上で必要な基本的な知識と現代生活における身近な健康問題を取り上げ、健康生活実践の態度を身につけることを目的とする。
健康・スポーツ実技	健康に関する基本的な知識やこれまで体験してきたスポーツ種目のスキルアップを目指す。環境に応じたスポーツ展開の創造へと発展させ、実生活に役立つスポーツ実践を体得すると同時に、生涯スポーツへの方向付けをする。

◆専門科目◆

科目名	授業科目の概要
保育原理	保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令に基づく制度について学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に則った保育の基本・目標と方法について理解する。また保育の思想と歴史的変遷を学び、保育の現状と課題について考える。
教育原理	教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶとともに、教育にかかわる今日的な課題についても原理的に考察する。教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにすることを目指す。
教育制度論	教育・保育実践を支える制度について、その構造や原理、社会的意義や必要性などの基礎を学んだのち、現在に至るまでの制度の変化や最近の政策動向を知り、それが教育・保育に与える影響、現在の制度が抱える課題等について検討し、理解を深める。
子ども家庭福祉	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史を知り、現代の制度や実施体系について理解する。子ども家庭福祉の現状について理解を深めながら、子どもの人権擁護についても考察していく。最後に今後の展開について解説し、学生とともに考える。
社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉における子ども家庭福祉の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体制を理解し、相談援助について学ぶとともに、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深める。さらに社会福祉の動向と課題を考察する。

科目名	授業科目の概要
子ども家庭支援論	子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を生かした支援の基本を理解する。子育て家庭に対する支援体制を知る。加えて、支援サービスや地域資源を活用した保育士の活動について学び、子育て家庭のニーズに応じた支援の展開と課題について考察する。
社会的養護Ⅰ	社会的養護の意義について、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務を踏まえて理解する。歴史の変遷を辿り、今日の社会的養護の制度や実施体系、施設養護や家庭養護の実際を学ぶ。さらに、社会的養護の現状と課題について、施設運営管理や被措置児童等虐待防止、地域福祉との関係を踏まえて考察する。
保育者論	“保育者とは何か”を命題とし、学生一人一人が目指していきべき保育者像を追及していく。また実際に保育現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤、それを通しての成長の過程等をエピソードを交えながら講義を進める。
保育の心理学Ⅰ	発達に関する心理学の基礎理論を習得し、生涯発達の視点から人間の発達について理解する。また遊びや学習の過程について学ぶ。これらの学習をとおして、子どもと保育者との社会的相互作用の観点から保育者としての視点や姿勢について考察していく。
子ども家庭支援の心理学	発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。
子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。子どもの身体的な発育・発達と保健、心身の健康状態とその把握方法について理解する。また、子どもの疾病と予防法及び他職機関の連携・協働の下での適切な対応について理解する。
子どもの食と栄養Ⅰ	小児期の食生活は、生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。そのため、保育者自身も、この時期の食事の重要性を十分に理解する必要がある。本科目では、食生活の意義や栄養の基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
子どもの食と栄養Ⅱ	子どもの食と栄養Ⅰに引き続き、栄養に関する知識（五大栄養素、食生活指針、食事バランスガイドなど）を深める。食品行事や、食育の基本についても理解し、その実際を学ぶ。身近な食に関する諸問題についても学び、普段の自分たちの食生活（行事食など）を振り返り、望ましい食生活とはどうあるべきかを考察する。
保育カリキュラム論	保育における計画及び評価の重要性について理解する。保育の全体的な計画の編成と指導計画の作成について事例を通して、意義と方法を学ぶ。子ども理解に基づく保育の過程について（計画⇒実践⇒省察・評価⇒改善）その構造を捉え、保育内容の充実と質の向上について考える。
保育内容総論Ⅰ	保育の全体構造を理解し「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と保育内容の関連を学ぶ。子どもの発達や社会状況、保育内容の歴史等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即して、多様な保育展開ができるよう具体的な保育の過程につなげて理解する。
人間関係指導法	幼児期の人間関係の発達に関する学びを基に、領域「人間関係」のねらい及び内容への理解を深める。幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法や保育の展開について、演習を通して身につける。
環境指導法	領域「環境」における内容を基本として、子どもが環境とかかわる力を培うことができるようなより具体的な指導法とはどういったものかを考える。指導計画を実際に作成し、それを実践する中で子どもへの援助の在り方等を学ぶ。模擬保育を通して実践的に学ぶ。
健康指導法	領域「健康」に示されたねらいを達成することを目的に、幼児の基本的な生活習慣や態度を育成するために必要な基礎的な理論、および実践法について学ぶ。さらに、保育の場における「健康」に関する課題、他の領域との関連性についても理解を深める。
言葉指導法	保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。また、言葉の発達に即して、言葉遊びや児童文化財を適切に活用する技術を体験的に学び、保育を構想する力を身につける。
表現指導法	保育者として子どもの表現力をどのように育て、援助していけばよいかについて学ぶ。子どもと豊かに関わり、育ちを支えるために必要な保育者自身の感性とそれを支える表現技術の獲得を目指す。さらに、保育の場における「表現」に関する課題、他の領域との関連性についても理解を深める。
乳児保育Ⅰ	乳児保育の意義、目的、歴史の変遷、役割などを現状と課題を含めて学ぶ。保育所や乳児院等多様な保育の場を知り、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、その運営体制や職員間の連携、家庭、地域との連携等について学ぶ。
乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰで学んだ基本的考え方を軸に、3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わり方、配慮の実際を具体的に学ぶ。養護と教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育方法、環境について、計画の作成や演習を通して具体的に学ぶ。
情報処理論	コンピュータは保育現場では、園のおたより作成、ホームページ運用、保育記録などの電子化、保護者との連絡手段、会計管理など様々な活用をされている。この科目では、IT技術の発展の流れやアプリケーションを構成している要素技術を理解し、保育現場の実務レベルでのコンピュータ・リテラシーの習得を目指す。
子どもの健康と安全	保健的観点に基づく保育の環境整備や援助について理解する。体調不良等に対する適切な対応や関連するガイドラインやデータ等を踏まえ保育における健康および安全の管理、感染症対策、保育における保健的対応を具体的に理解する。子どもの健康及び安全管理の実施体制や保健活動の計画及び評価等について理解する。

科目名	授業科目の概要
障害児保育	障害児等の理解と保育における援助、指導計画及び個別の支援計画の作成、生活や遊びの環境、子ども同士の関係性、職員間の連携・協働について学ぶとともに、家庭・関係機関及び小学校等との連携・協働について理解し、保健・医療・福祉・教育の現状と課題を知る。
特別支援教育・保育概論	子どもの発達や権利を保障するために、特別な支援・配慮を必要とする幼児、児童及び生徒(障がい・虐待・社会的マイノリティ)の特性や社会的背景に関する基本的知識、教育課程及び支援施策を学ぶ。さらに共生社会を目指した実践事例についても理解を深める。
社会的養護Ⅱ	施設養護及び家庭養護の実践について具体的に理解する。社会的養護の必要な子どもの特性や現状を踏まえ、日常生活支援、治療的支援、自立支援の視点で事例から実践的に学ぶ。また、家庭支援、アセスメントの方法や個別の支援計画、記録、自己評価など、ソーシャルワークの専門的技術と知識を学ぶ。
子育て支援	保護者に対する子育て支援には、相談、助言、情報提供などがあり、援助技術は、家族の現状把握、支援計画、支援の実践や記録、評価、カンファレンス、職員間連携や協働、社会資源の活用など、多岐にわたる。保育士が専門的に実施する相談援助の方法と技術について、具体的な場面を想定して実践的に学ぶ。
音楽表現Ⅰ	保育内容を理解し、子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な自然等の音や人の声、音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに、子どもの日常生活や遊びと音楽活動とを関連づける遊びの展開を習得する。(音楽基礎理論・声楽・鍵盤楽器の技術・簡易打楽器など)
造形表現Ⅰ	子どもの保育内容を理解し、造形遊びを豊かに展開するために必要な基本知識と技術を習得する。また、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする中で、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や表現活動に関する保育技術を習得する。
身体表現Ⅰ	子どもの身体運動に関する基礎的な知識を理解するとともに、保育者としての運動技能や身体表現力を高めることを目指す。模擬保育などの実践を通して遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得できるようにする。さらに、幼児が興味・関心を示し、安全で積極的に身体表現活動に関われるような実践法について学ぶ。
言語表現	素話や絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊びなど、子どもの言語発達に関わる児童文化財の特徴や正しい扱い方を学ぶ。また、集団を前にしての実技と相互批評を通して、保育現場で子どもの言語活動を豊かに展開する実践力を身につけるようにする。
保育・教職実践演習(幼稚園)	これまでの学校における保育者養成の学習内容を学生一人一人、履修カルテを用いて今一度整理する。保育実践における具体的な事例の検討および保育現場の实情に触れながら保育を実践する指導力の育成を目指す。模擬保育を通して実践的に学ぶ。
教育社会学	教育と社会のあり方について、教育改革の動向、多様化・複雑化する教育の今日的課題への対応の仕方、学力格差、学校外での学びなどに焦点をあてて検討する。これらを通じて、学校を巡る様々な教育的課題に対する指導のあり方、社会変動と教育に関する知見を深める。
幼児理解の理論と方法	子どもの生活や遊びの中からその発達や学びについての理解を深めるため、そして集団の中での一人ひとりの子ども理解を深めるための、記録や観察方法、子どもの行為の裏にある「思い」に気づき、寄り添うまなざしとそれに基づく援助について学び、保育者の役割について考える。
教育相談	保護者の相談を受けること、保護者と連携しながら子どもの発達を支援することが保育者の重要な役割となっていることを学ぶ。保護者と信頼関係を築くため、また関係機関と連携するために必要な態度や知識、カウンセリングマインドに基づくかわりについて理解を深める。
音楽表現Ⅱ	保育内容を理解し、子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な自然等の音や人の声、音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに、子どもの日常生活や遊びと音楽活動とを関連づける遊びの展開を習得する。(コード伴奏法・子どもの歌・遊び・簡易打楽器の技術など)
音楽表現指導法	音楽表現Ⅰおよび音楽表現Ⅱの教授内容を基礎に、子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基礎知識と技術を、また身近な自然やものの音、人の声や音楽を親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに音楽遊び計画の立案や実践を通して子どもの日常生活や遊びと音楽活動とを関連づける遊びの展開を習得する。
身体表現Ⅱ	身体表現Ⅰの学習をもとに、子どもの運動遊びやリズム・表現遊び等について実践的な指導力を身につける。また、保育者として自らの運動技能を高めるために必要な運動技術の正しい理解と身体操作能力の向上を目指す。
身体表現指導法	身体表現Ⅰおよび身体表現Ⅱの教授内容を基礎として指導案の作成から実際の指導、教材研究の在り方などについて学ぶ。学生個々が課題を持ち寄り、指導案をもとに模擬保育を実践、終了後は自己評価を行うことによって確実な指導力を身につける。
造形表現Ⅱ	造形表現Ⅰを基に、保育者として必要な造形表現に係る教材等の活用及び作成法を習得する。また、子どもの経験や様々な表現活動と造形活動とを結びつける遊びの展開や、イメージや感性を養う環境構成及び具体的展開のための保育技術を習得する。
造形表現指導法	造形表現Ⅰおよび造形表現Ⅱの教授内容を基礎として指導案の作成から実際の指導、教材研究の在り方などについて学ぶ。学生個々が課題を持ち寄り、指導案をもとに模擬保育を実践、終了後は自己評価を行うことによって確実な指導力を身につける。
教育の方法と技術	子どもの学びを支える教育方法や教育技術、教育目標や教授方法などについて理解する。また、教師を目指す学生自身のICT活用能力を高め、学校現場におけるツールを効果的に活用した教育計画、実施、教材の開発、授業評価に関わる知識と技術を習得し、実践的な指導力を育成する。
教育実習	教育実習は2年次6月4週間を原則として同一の幼稚園で実習する。実習最初の1週では、観察実習を通じて幼稚園における子どもの姿や教師の役割について理解し、2週目以降の参加・指導実習に備える。3週目には部分実習、4週目には責任実習を行う。

科目名	授業科目の概要
教育実習指導	実習の意義・目的・内容の理解を中心に、実習の準備とその省察を行う。事前学習では、子ども・保育者・幼稚園の役割に関する理解を意識化するとともに自己の課題を明確化する。事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる実践力の獲得につなげる。
人間関係	領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。幼児を取り巻く人間関係の現代的課題を理解するとともに、園生活における関係の体験について演習を通して学び、幼児期の人間関係の発達を理解する。
環境	5領域の1つ「環境」について学ぶ。保育所や幼稚園、認定こども園等における環境とは何かを考える。環境とかわる力を子どもに培うためには自身が保育者として行うべき保育を追究する。しいては日頃の生活から保育者として環境をどう捉えていくべきなのかを再考できる授業としたい。
健康	領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの事項について、知識や情報、事例等を通して理解を深めることにより、専門的な知識を身につける。
言葉	言葉の意義や機能、言葉遊び、児童文化財等についての学習を通して、領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児の言葉を育てるために必要な専門的知識を身につける。また、児童文化財の活用を体験し、言葉についての事例研究を検討することにより、言葉についての考察を深める。
表現（音楽）	幼児の音楽的遊びや生活と領域「表現」の関連性、幼児の音楽的発達を理解する。様々な音楽的表現活動を通して音楽の楽しさを味わうと共にその楽しさの要因を音楽的知識から探る。また音楽表現活動を通して他者の表現への共感や表現を豊かにしていく過程を学び、幼児の音楽表現活動計画を立案し実践する。
表現（造形）	造形での遊びは、頭や体全体を使って表現することで、知識や心を獲得していきます。子どもたちの発想や創造的思考を理解するためには、それに同調できるアンテナを持っていなければなりません。自分の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要です。授業では、子どもたちの表現を受け止め理解していく柔軟な感性を学びます。

◆専攻科で開講する科目◆

科目名	授業科目の概要
ボランティア活動	地域社会において福祉・教育・保育などの領域に関わる場におけるボランティア活動に参加することを通して、多様な生き方を理解するとともに、社会貢献の意義を実感する。また、人とのかかわりを通じてコミュニケーション能力、社会性を習得し、実践による知識技術の確認をする。
児童文化	子ども特有の遊びや文化財を人間の文化全体の中で概観し、子どもの生活や人間関係に潤いを与える児童文化財の価値を考察する。子どもの遊びを豊かにする児童文化財（絵本、人形劇等）を活用する際の基礎的な知識と技術を身につける。
児童文学	日本児童文学の代表作を読み深めながら、児童文学の歴史や特質、作家についての知識を得るとともに、保育者として必要な読解力と文学的感性を養う。毎回、作品を通読した後、作品の主題について分析・検討し、大人たちが見失いがちな子どもの純粋な世界について、保育の視点から考察する。
保育実習Ⅰ（保育所）	既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。保育所の役割や機能を理解するとともに、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。保育の計画・観察・記録及び自己評価、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
保育実習Ⅰ（施設）	児童福祉施設等における子ども・利用者の生活と援助方法、施設の役割と機能を具体的に学ぶ。観察、実践を記録し、支援方法や支援計画を省察し、子ども理解を深めるとともに自身の自己評価を行う。実習を通して、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。
保育実習指導Ⅰ	保育実習の意義・目的、実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。また、保育所及び児童福祉施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容を学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にする。
保育実習Ⅱ	既習教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育所の役割や機能、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。観察や関わり視点の明確にし、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理を理解し、実習における自己の課題を明確化する。
保育実習指導Ⅱ	保育実習の意義と目的を理解し、実習や既習の教科目の内容等を踏まえ、保育の実践力を習得する。保育士の専門性と職業倫理について理解するとともに、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
保育実習Ⅲ	児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について、既習の教科目や保育実習の経験を踏まえて理解を深める。子どもや保護者の支援に関する知識、技術を養い、施設における支援の実際を社会的養護の原理と関連付けて学習する。児童福祉施設の業務の現状と課題を学ぶとともに、自己課題を明確にする。
保育実習指導Ⅲ	児童福祉施設（保育所以外）における保育実習の意義と目的を総合的に学ぶ。既習の教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を修得する。子ども・利用者に対する知識・技術を活かした保育実践を学び、適切な観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習事後指導により各自の課題を明確にする。